

開戦をすでに決意するルーズベルト大統領

御前会議のあと近衛首相は早速ルーズベルトに電話しまして、日米首脳会談を開きたいと申し込みます。ルーズベルトは上機嫌で応対しますが、腹の中ではもう開戦を決めていたのです。十六年八月、プリンスオブウェールズ艦上で、イギリスのチャーチル首相と大西洋会談を行いまして、ここで対日開戦を決めています。

イギリスは早くアメリカに参戦して貰わないと困るのです。ドイツはすでにドーバー海峡に侵攻して来て、ロンドンに大砲を撃ち込み始めています。うかうかしているとイギリスは滅びるといふ危機感をもっているのです。アメリカに参戦させるためには何かきっかけがなければなりません。何故ならば、十五年十月にルーズベルトは大統領に三選されますが、その時の公約として「アメリカの青年をヨーロッパの戦線に動員するようなことは絶対にいたしません」と口を極めて約束しているのです。つまりアメリカは第一次大戦の時のように、ヨーロッパの戦争に参戦することはないと強く約束して当選しているのです。ですからアメリカが攻撃されるといったような重大な理由がなければ参戦できないのです。

アメリカは色々と挑発行動をとりました。潜水艦を使って二度もドイツの商船を沈めます。しかしヒトラーは賢明で利口ですから、この手に乗ったらアメリカが参戦してくることを知っていますので、その手には乗りません。そこでアメリカは考えます。日独同盟を結んでいる日本を戦争に引き込めば、ヨーロッパの戦線にも参戦できると。これを「裏口参戦」といいます。これをアメリカは巧みに計画します。ステイムソン陸軍長官の日記には明確にこのことが出ているのです。いかにして日本に最初の一発を撃たせるかという相談を、ルーズベルト大統領、ハル國務長官、ステイムソン陸軍長官、ノックス海軍長官の四人組が、幾度も集まって鳩首協議をしているのです。ルーズベルトも近衛首相との会談については調子のよいことを始めは言っていましたが、結局実現されませんでした。